

はじめよう経済学

第12講 IS-LM分析(1)

講師：加藤 真也

今回(第12講)は…

- **投資関数**
- **IS曲線の導出**
- **IS曲線の右シフト**

- **投資関数**

これまで I は定数

新 $I = -a \cdot r + b$

利子率

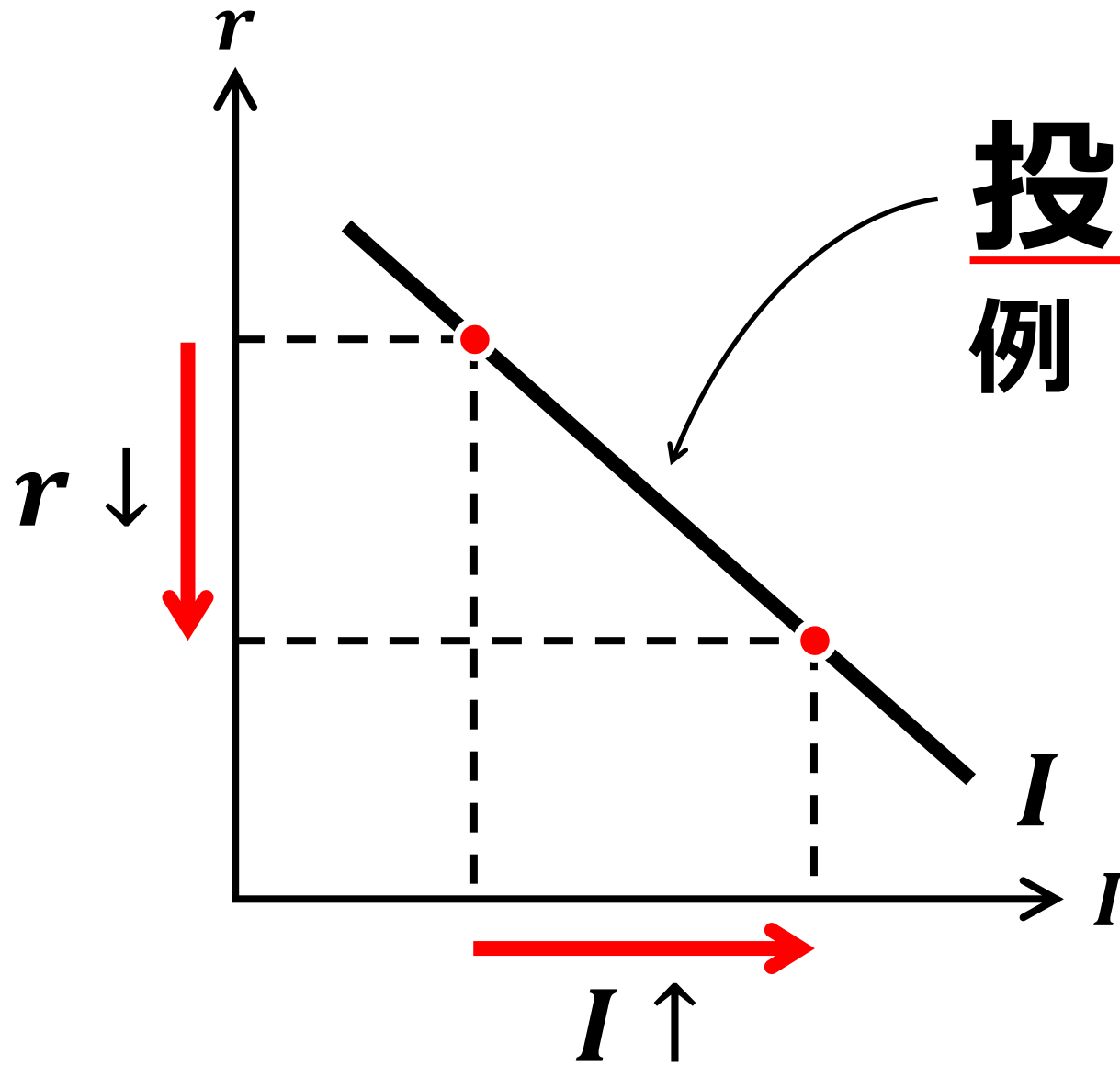
interest rate

投資曲線

例 $I = -2r + 6$

$$\rightarrow 2r = -I + 6$$

$$\rightarrow r = -\frac{1}{2}I + 3$$

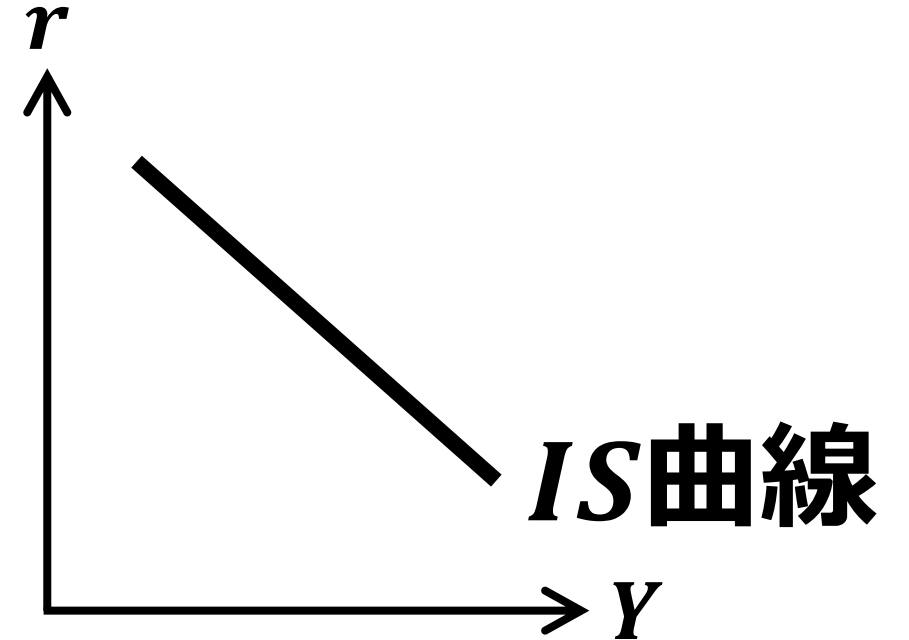


「**利子率** r ↓ → **投資** I ↑ はなぜか？」

理由

利子率(金利)が下がると、
企業はお金を借りやすくなり、
設備投資が活発になる

- **IS曲線の導出**



Investment : 投資

Savings : 貯蓄

財市場均衡条件より、

$$Y = C + I + \cancel{G}$$

$$Y - C = I$$

$$S = I$$

政府がないモデル

政府がある(G, T あり)
モデルなら、

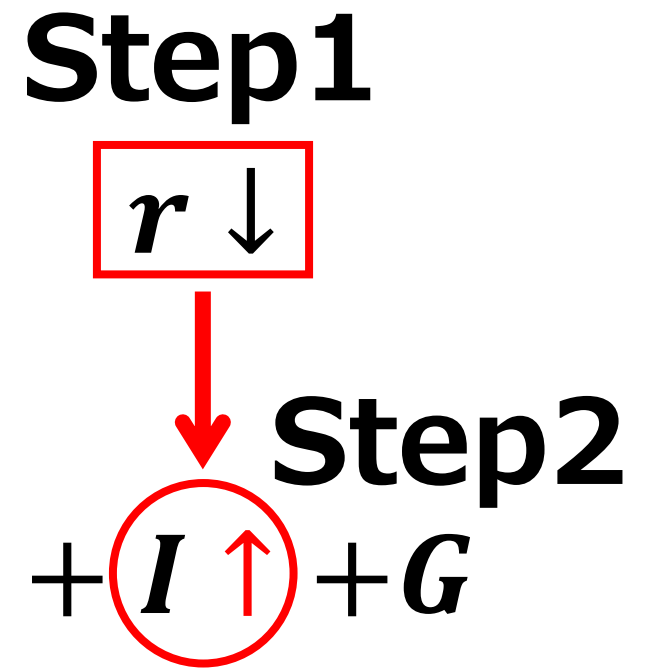
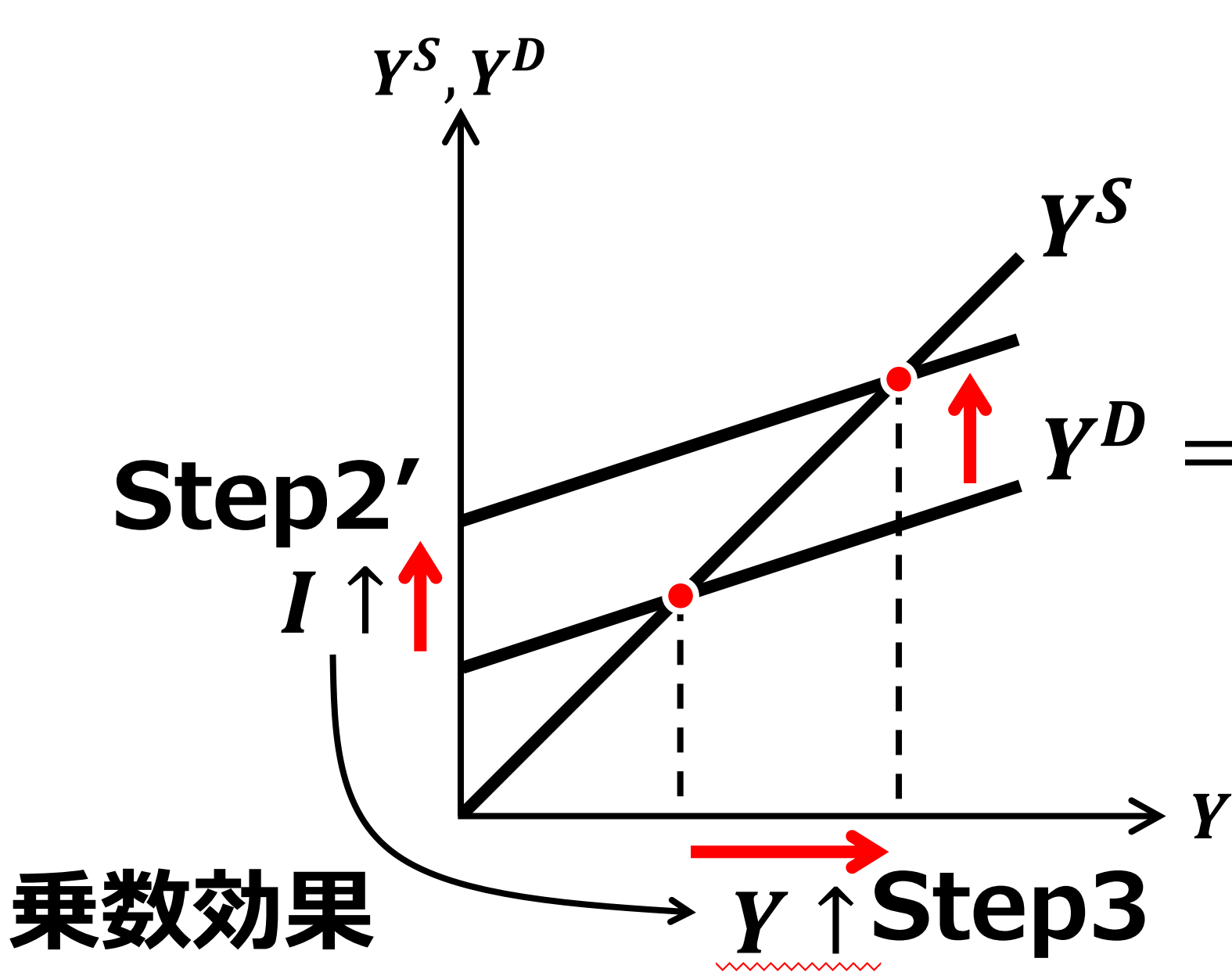
$$Y = C + I + \textcircled{G}$$

$$Y = C + I + G + \text{---}T$$

$$\text{---}Y - C - T + T = I + G$$

$Y - C - T = S$ であるので、

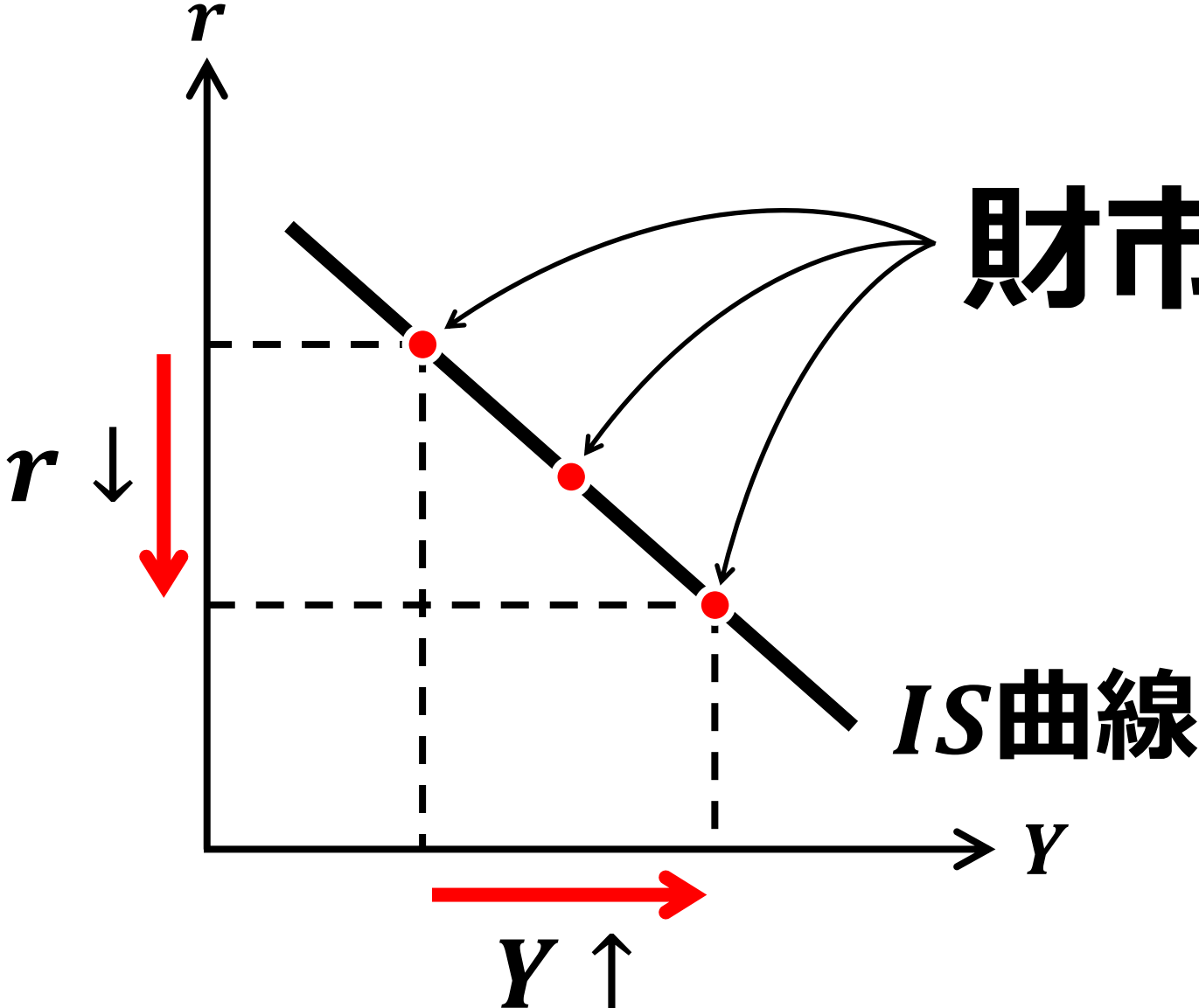
$$S + T = I + G$$



乘数効果

上図より、
 $r \downarrow$ のとき、財市場が
均衡するように $Y \uparrow$

財市場均衡



例題

$$Y = C + I + G$$

$$C = 0.8Y + 5$$

$$I = -r + 5$$

$$G = 10$$

のとき、IS曲線の式を求めよ。

解答

財市場均衡条件より、

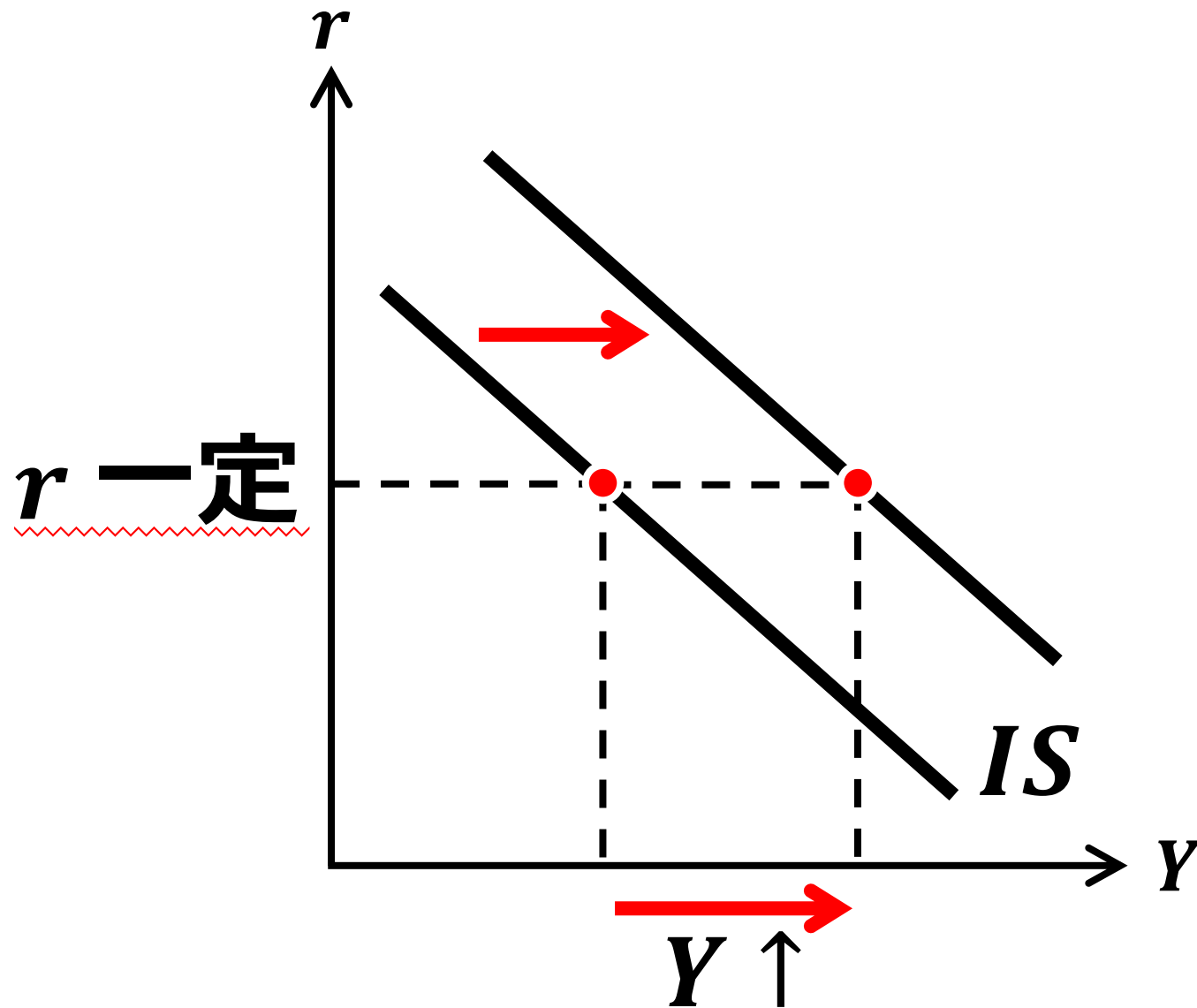
$$Y = C + \underline{I} + G$$

$$Y = 0.8Y + 5 + (\underline{-r + 5}) + 10$$

よって、

$$\underline{\underline{r = -0.2Y + 20}} \quad : \text{IS}$$

• IS曲線の右シフト

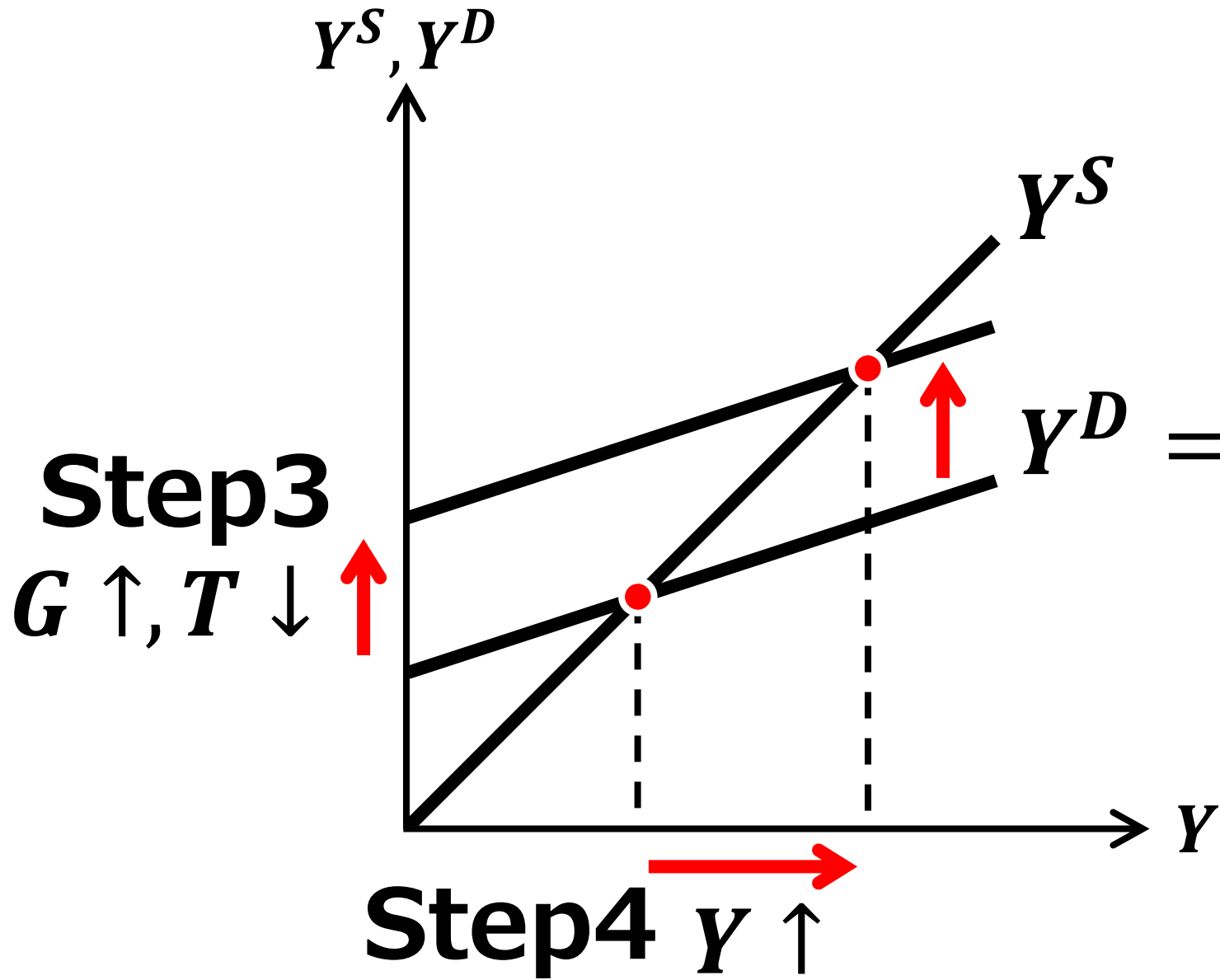


「 r を一定として Y を増やすには？」

結論

$G \uparrow, T \downarrow$

拡張的財政政策



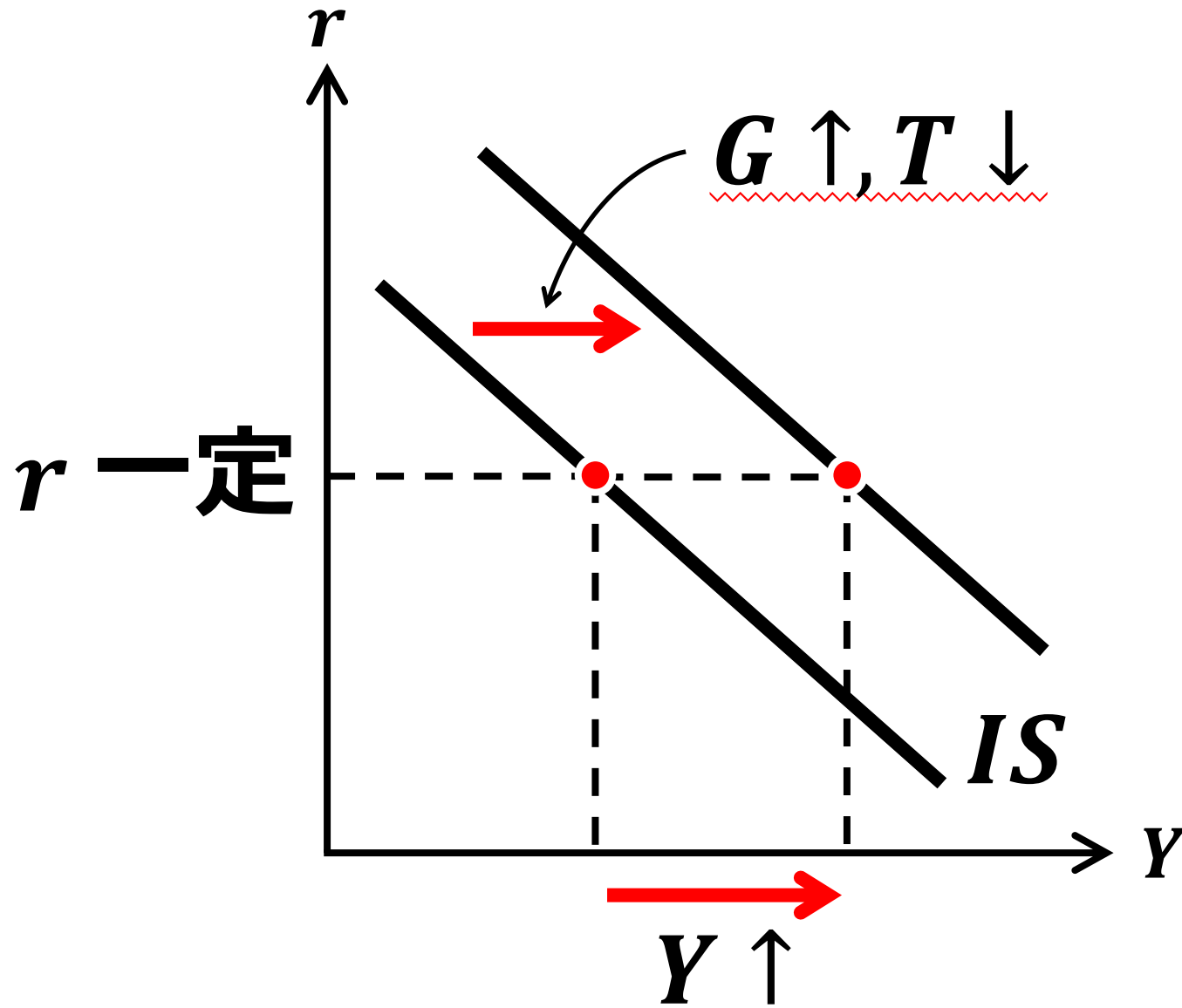
Step1
 r 一定

Step2

$$= cY + C_0 - cT + G + I$$

$- cT \downarrow$
 $+ G \uparrow$
 I 不變

よって、
 r を一定のまま、 $G \uparrow, T \downarrow$ で
 $Y \uparrow$ となる



ちなみに、
緊縮的財政政策 ($G \downarrow, T \uparrow$)
でIS曲線は左シフト

次回(第13講)は…

- ・ 今回はIS-LM分析の中のIS曲線について学びました
- ・ 次回はLM曲線を求めるために貨幣市場の勉強をします